

保育園における学生による運動指導の効果についての検証

——富田林の公立保育園6園を対象にして——

増 井 正 志*

(岡ゼミ)

キーワード：体力・運動能力、運動指導、保育園

現代の子供たちの体力・運動能力の低下の現状

文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」(1964～)によると、子どもの体力・運動能力は、昭和60年ごろから現在まで低下傾向が続いている。現在の子どもの結果をその親の世代である30年前と比較すると、ほとんどのテスト項目において、子どもの世代が親の世代を下まわる結果である。一方、身長、体重など子どもの体格について比較すると、逆に親の世代を上回っている結果である。このように、体格は向上しているにもかかわらず、体力・運動能力が低下していることは、身体能力の低下が深刻な状況であることを示しているといわれている。また、最近の子ども達は、靴のひもを結べない、スキップができないなど、自分の身体を操作する能力の低下も指摘されている。子どもの体力・運動能力の低下は、将来的に国民全体の体力・運動能力の低下につながり、生活習慣病の増加やストレスに対する抵抗力の低下などを引き起こすことが懸念され、社会全体の活力が失われるという事態に発展しかねないといわれている。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容には体育という言葉はなく「運動あそび」あるいは「動きを伴ったあそび」と示されているだけである。子どもたちは「あそび」からいろいろなことを学ぶという方針である。しかしながら、子ども達の自主的な運動あそびや、動きを伴ったあそびを通して経験する運動だけで体力・運動能力は、なかなか向上できない時代になってきていると言われている。従来の教育方針を大切にしながらも、保育現場における幼児体育の積極的な導入の必要性がうたわれている。

このような現状なので、学生である私たちにも子どもたちの体力・運動能力を向上させるために何かできることはないかと考え、今回のような運動指導を保育所に訪問して行うことにした。

はじめに

平成27年6月12日～7月31日の2ヶ月間、大阪大谷大学教育学部幼児教育専攻の学生13名による幼

*平成27年度卒業生

児への運動指導を富田林市の公立保育園6園を対象に行った。保育を専攻する学生が保育園に運動指導に介入することにより、保育園側や子どもたちにどのような効果をもたらすのかを検証することとした。指導にあたった学生は、幼児の運動あそびの研究に携わる幼児体育を専攻するゼミに所属する学生であり、幼児の運動指導について、実際に数多く指導を経験してきた学生たちである。園側のメリット・デメリットはどのようなものなのかを調べるために運動指導介入後、運動指導にかわった保育者にアンケートに回答してもらった。そのアンケート結果を分析し以下に述べることとする。

富田林市の概要

はじめに今回運動指導を実施する富田林市について、簡単に紹介しておく。

大阪府の東南部に位置する富田林市は、自然と歴史に恵まれたまちである。市の北東平坦部は、南北に流れる石川をはさんで平野が広がり、古くからまちが開けたところで、特に寺内町には歴史的に貴重な町並みが残されている。一方、市の南部は、雄大な金剛・葛城連峰を背景に緑豊かな丘陵と美しい田園風景が広がり、自然景観にあふれている。また、西部丘陵地域は、計画的に開発の進んだ環境水準の高いニュータウンとなっている。

昭和25年（1950年）4月に人口約3万人余で、大阪府下16番目の市として産声を上げた。現在は人口115,034人、世帯数としては50,257世帯となっている。

運動指導を行った保育園・日時・内容

富田林市子ども未来室¹⁾と連携をとり市内保育園において、学生による運動指導の訪問指導に協力してもらえる園を募集した。日程と園の希望の運動種目を中心に指導内容の調整を行った。指導時間は、平日の保育園での設定保育の時間10時から11時の1時間を指導時間とし、幼児にも理解してもらえる簡単な生活リズムや運動あそびの大切さを知らせるレクチャーを行った。それらをまとめたものが表1である。

表1

日時	場所	対象年齢・人数	指導内容
6月5日（金）10:00～11:00	K 保育園	5歳児 58名	なわあそび
6月12日（金）10:00～11:00	T 保育園	5歳児 12名	親子体操
6月19日（金）10:00～11:00	OT 保育園	5歳児 22名	なわあそび
6月26日（金）10:00～11:00	W 保育園	5歳児 24名	なわあそび
7月28日（火）10:00～11:00	O 保育園	5歳児 19名	ボールあそび
7月31日（火）10:00～11:00	KH 保育園	5歳児 24名	ボールあそび

指導内容の詳細は以下の通りである。

準備運動－音楽を使ったリズム体操「どんすかばん体操」

なわあそび－短なわを使い2人組での綱引き。じゃんけん列車。前まわし一人跳び

長なわでの、円形なわ回し、円形綱引き、なわの潜り抜け、なわジャンプ。

親子体操－学生と2人組になり、たかいたかい、ロボット歩き、手押し車、足跳びまわり。

ボールあそびーボールフィーリング、転がしドッチボール。

アンケートの実施方法

質問紙法 5 項目よる 5 から 6 段階選択方式と 3 項目の自由記述の調査用紙を用いる。(配布したアンケートは最終ページに資料として添付)

運動指導が終わったのち運動指導に関わった保育者に回答を依頼し 1 週間後に回収した。アンケートは上記の 6 園から、16 枚の回答が集まった。

配布したアンケートは最終ページに資料として添付。

アンケート集計結果

➤ 自由記述式集計結果 (問 1、問 7、問 8)

1. 学生による運動遊びの訪問指導において良かった点についての問いの回答 (問 1)

- ・優しく丁寧に指導してくれたので、子どもたちも喜んで楽しい時間となりよかった。「ほめる」ということを大切にしているところがよかった。
- ・たくさんの学生さんに来ていただくことができ、きめ細かく声掛けをしてもらうことができ、子どもたちが安心して取り組むことができていました。
- ・1対1で子どもたちに関わってくださり、甘えられていてよかった。
- ・子どもが楽しんで取り組んでいたこと。
- ・遊ぶ中で、子どもたちの発達面、精神面を客観的にみることでよかった。
- ・元気よく接していただき、子どもたちが喜んでいた。
- ・楽しい遊びを通して、身体をしっかりと動かすことができたこと。
- ・水分補給の際、いつも飲み終わった子とまだの子との待ち時間に騒がしくなっていたが、飲み終わったらハイタッチをしてもらいいつもゆっくりな子も早く支度をしようと頑張る姿がありそのような方法もあるのだなと感じた。
- ・すごく活気のある雰囲気の中子どもたちが集中しており、楽しんで遊んでいる姿が印象的でした。
- ・遊びの工夫を知ることができた。(保育士) お兄さん、お姉さんに教えてもらうこと、触れ合うことが新鮮でよかった。(子ども)
- ・具体的でわかりやすく、子ども目線で指導してくれたこと。
- ・なわとびを使った遊びを集団で取り組める方法を教えていただきありがとうございました。
- ・日常で使っているもの(なわとび)を使った遊びで、身近に楽しめた。
- ・なわとびを使ったいろいろな遊び方を指導してもらえたこと。
- ・子ども目線に立って雰囲気を盛り上げており、子どもたちも夢中になって楽しんでいたところ。

このアンケートから優しく丁寧に指導、「ほめる」ことの大切さ、あそびに限らず色々な工夫を教えても

らえる、元気さ・活気・雰囲気盛り上げることでたのしんでとりきめるなどの意見が多くみられる。

2. 運動遊びの指導で何か困っていることについての回答（問7）

- ・ 苦手意識のある子どもや意欲のないこそもの誘い方。気持ちがプラスになるような指導方法。
- ・ 様々な本で勉強はするものの、的確なアドバイスが難しいこと。
- ・ 身体の動かし方、使い方について。
- ・ 運動会に向けて、全員が意欲を持って取り組めるようにすること。
- ・ 特になし。
- ・ それぞれの運動のコツ、教え方を知りたい。
- ・ 逆上がりが苦手な子が多いので、逆上がりの教え方（コツ）を知りたい。
- ・ 運動や外遊びに取り組む意欲を持っていない子にどんなあそびの発展の仕方をしていけば興味を引いたり、意欲のある活動に結び付けたりしていくことができるのか。
- ・ 鉄棒について。身体が硬いまたは怖がっている子に対する援助の方法。
- ・ 鉄棒などを怖がってしまう子どもたちへの指導方法が難しいこと。
- ・ 跳び箱の指導方法について教えてほしい。
- ・ 活動するにあたって、身体に対して配慮のいる子どもが楽しんで他児とともに楽しんで進めていく方法など。

このアンケートから運動のコツ・指導方法・アドバイスの仕方を教えてほしいのような意見が多くみられる。

3. その他、学生の指導に対しての助言についての回答（8）

- ・ 活動中にできていない子に気づいて、働きかけやさりげなく援助をするなど。（何人かで1組になるチーム分けにおいて、1人になってしまう子がいたがその子どもに対しての働きかけや言葉かけができるといいと感じた。）

➤ 選択方式の集計結果（問2、問3、問4、問5、問6）

グラフについては質問紙の回答順に①から並べており、回答数の多い順ではない。

1. 園児さんに交流前と交流後で何か変化を感じられることがあったかについて。(複数回答可)

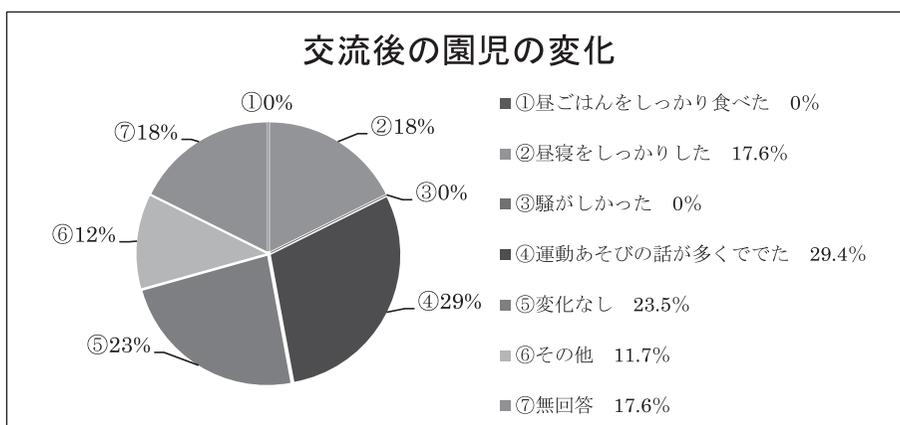


図 1

この項目は複数回答可であり、28 個の回答が得られたうち、「昼ごはんをしっかり食べた」と回答したのは 0/17 であった。「昼寝をしっかりした」と回答したのは 3/17 で 17.6% 「騒がしかった」と回答したのは 0/17 であった。「運動遊びの話が多く出た」と回答したのは 5 人で 29.4% 「変化なし」と回答したのは 4/17 で 23.5%。「その他」と回答したのは 2/17 で 11.7% 「無回答」が 3 人であった。

「その他」の項目の自由記述として

- ・教えてもらった遊び（なわとびの引っ張り合い）を子どもたち同士でも遊びに取り入れていた。
- ・普段できないようなあそびをしてもらい、楽しく過ごしていた。

「運動遊びの話が多く出た」という項目が、1 番回答率が高くこのことから普段の保育で行っている運動あそびとは違った運動あそびを提供したことにより、新鮮な話題が提供できたのではないかと考えられる。子どもたち同士または、子どもたちと保護者、子どもたちと保育者、保育者と保護者などいろいろな関係におけるコミュニケーションの機会を増やし、コミュニケーションを図ることに役に立てたのではないかと考えることができる。また「昼寝をしっかりした」という項目が次に回答率が高かった。このことから普段の保育での運動以上に体を動かし運動量が多かったと推測する。子どもたちの年齢に応じた運動量の確保、動きの増量は子どもたちに心地よい適度な疲労をもたらし、午睡をしっかりすることができたのではないかと推測する。(図 1)

2. 園児さんに運動あそびは好評でしたか。

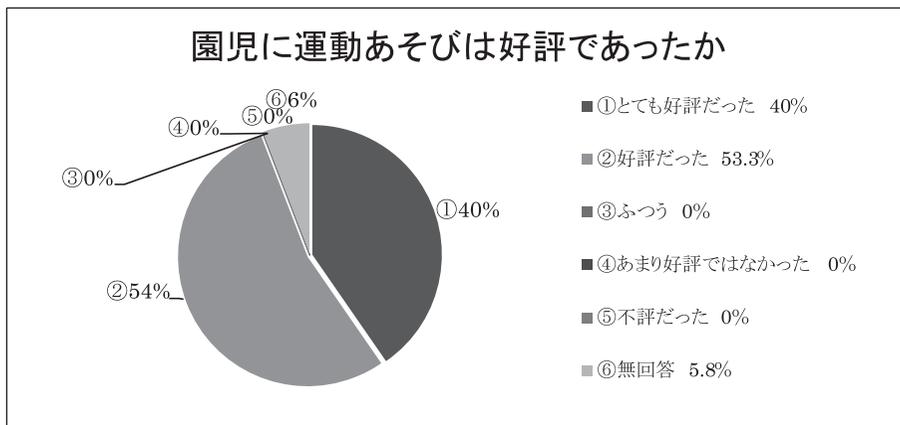


図 2

「とても好評だった」という回答が40%。「好評だった」と回答したのは53.3%。好評という回答が93.3%。「ふつう」「あまり好評ではなかった」「不評だった」と回答したのは0%であった。「無回答」だったのが5.8%であった。(図2)

感想としては

- ・ なわとびはちょうど取り組み始めたところでもあったため、意欲的に参加して楽しんでいた。
- ・ 家庭でも（訪問指導の）話をする子どもがいたようで喜んでいました。
- ・ 「お兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒に遊ぶことができ楽しかった。」との声が聞くことができた。
- ・ 「楽しかった!」と言っていた。
- ・ 「おもしろかった」という声を聴くことができた。
- ・ 「おもしろかった」と言っていた。
- ・ なわとびでの綱引き（円形のなわとびの内と外にわかれたもの）が楽しかった、またしたいと言っていた。
- ・ ボールを投げたり、爆弾ゲームをしたりするのが楽しかった。体操がおもしろかった。楽しかった、おもしろかったという意見が多く上がった。

「とても好評だった」「好評だった」という回答が90%以上を占めていることから、子どもたちからは学生による運動指導はとても好評であったと考えることができる。運動指導による学生の介入は効果的であったと胸を張って言ってもよいのではないだろうか。担任の保育者とは違うお兄さん・お姉さん先生が指導することによって、いつもの保育とは違った面白さや楽しさがあり、興味・関心がわき、子どもたちも集中し、夢中になって活動に取り組めたからではないだろうか。その背景には、何度も指導案の作成を教員と学生との間で行い、しっかりした内容の運動指導をすることができたことだと考えられる。保育の専門家と言えない学生にとって、しっかりとした指導案は、指導において大変重要な役割を持つものだと実践を行ってみて感じる事ができた。また保育園での保育実習や、幼稚園・小学校での教育実習を終えある程度の経験と知識があった4回生が主となる指導であったことが、これだけの好評価の回答が得られのではないだろうか。(図2)

3. 先生として運動あそびでの時間の長さについて。

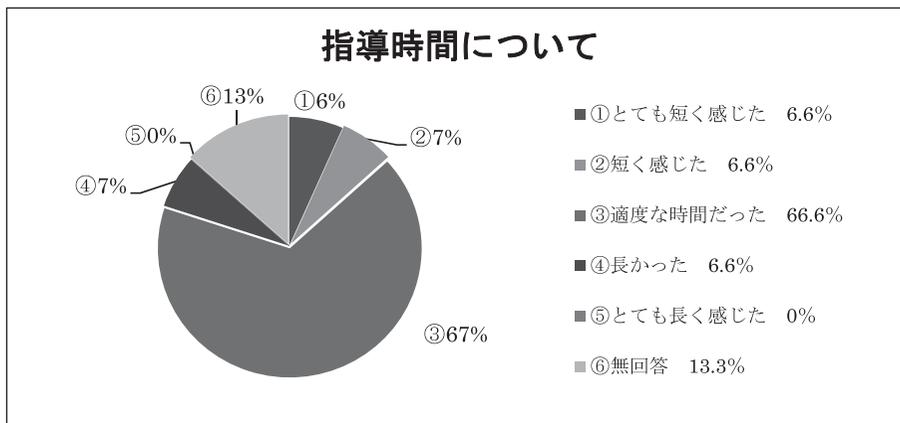


図 3

「とても短く感じた」と回答したのは 6.6% 「短く感じた」と回答したのは 6.6% 「適度な時間だった」と回答したのは 66.6% 「長かった」と回答したのは 6.6% 「とても長く感じた」と回答したのは 0% 「無回答」が 13.3% であった。(図 3)

問 4 の回答 (図 3) では

「適度な時間であった」と回答した保育者が 1 番多くあった。その理由として指導時間内に休憩時間も適度に配分しており、見ている保育者も子どもたちが運動する時間としてちょうどよい時間だったと感じたのではないかと考えることができる。この理由としても何度も指導案の作成を教員と学生との間ですることによって、しっかりとした指導案が作られ休憩時間においても、配慮がしっかりとされていたからではないのかと思われる。「とても短く感じた」「短く感じた」と回答した保育者は学生が行った運動指導を有意義に感じており、時間を忘れて子どもたちと一緒に楽しむ事ができたのではないかと考えることができる。反対に「長かった」と回答した保育者にとっては運動指導を有意義な時間として共有することができず、最後まで学生による指導に緊張感を持っていたのではないかと考えることができる。私たちの指導の力量、指導力不足や指導内容の工夫が足りなかったのではないかと考え今後の改善策を考えてゆきたい。そのためにも、もう少し細やかな側面まで探る質問紙の作成を行う必要性を感じそれを課題として考えたい。そのように改善を加えることにより指導力の向上や指導内容に工夫を取り入れ、介入した全ての園で有意義な時間を提供していければよいと考える。そのためには幼稚園教育要領や保育所指針だけでなく小学校学習指導要領や幼小連携などのねらいや内容もしっかりと読み込み、理解し、それらを取り入れた指導案を教員と学生との間でやり取りをしながらより良い指導案を作る必要があるのではないのかと思われる。(図 3)

4. 先生として、今後このような運動あそびでの交流の機会があれば行ってもいいかということについて。

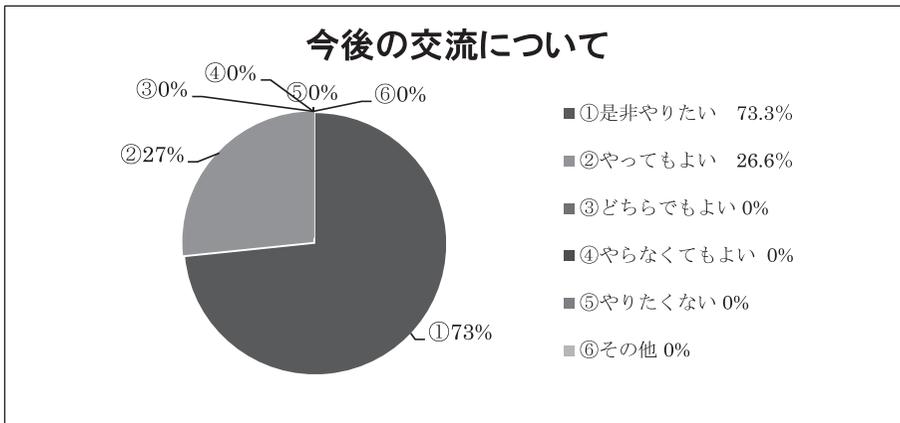


図 4

「是非やりたい」と回答したのは 73.3% 「やってもよい」と回答したのは 26.6% 「どちらでもよい」「やらなくてもよい」「やりたくない」「その他」と回答したのはいずれも 0% であった (図 4)

問 5 の回答では「是非やりたい」「やってもよい」の選択肢が 100% を占めており、保育園に介入して運動指導を行ったことは成功だったのではないかと考えられる。運動指導のプロの指導者でもない保育を専攻する学生であり、また体育専攻の学生でもない。そのような学生がこのような活動を行い「次回もまたやりたい」「やってもよい」という声が上がった理由は運動指導でありながら「保育」の目線に立ち子どもたちに接すること、子どもの心の育ちを大切に運動指導、子どもたちに寄り添う運動指導ができたからではないかと推察する。また、「先生」という立場ではなく、園の保育者よりも比較的孩子と年齢の近い「お兄さん」「お姉さん」として接することができ、子ども達も受け入れやすかったのではないかとと思われる。指導力においては園の保育者には足元にも及ばないところが多々あったと考えられるが学生が持っている「若さ」という点を活かした活気のある指導ができたことが保育園にも、子ども達に受け入れてもらえた理由の 1 つではないかと考えることができる。(図 4)

5. 次回、運動あそびを行うとすれば、指導してもらおうとたずかることについて。(複数回答可)

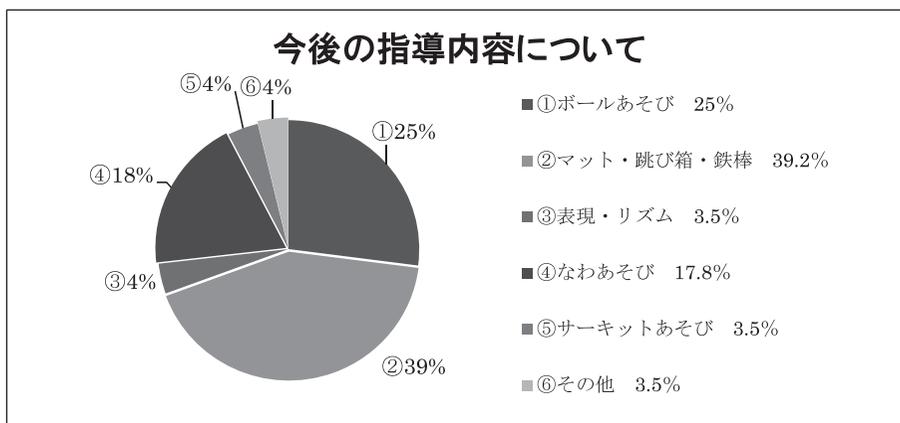


図 5

この項目は複数回答可であり、28 個の回答が得られたうち、「ボールあそび」と回答したのは 25% 「マット・跳び箱・鉄棒」と回答したのは 39.2% 「表現・リズム」と回答したのは 3.5% 「なわとび」と回答したのは 17.8% 「サーキットあそび」と回答したのは 3.5% 「その他」と回答したのは 3.5% であった。

その他の項目の自由記述としては

- ・竹馬
- ・身体の使い方、動かし方について。
- ・なわとび、逆上がりのコツ
- ・逆上がりやとび箱の指導方法など。

指導方法・コツ、身体の使い方・動かし方を指導してほしいという意見が多く上がった。

問 6 の回答では

「マット・跳び箱・鉄棒」の回答率が高いことが見て取れる。理由として考えられるのは、小学校教育指導要領（体育）の指導内容の中に、これらの種目があげられている。そのため幼小連携での考え方からも、子どもたちが小学校体育の授業で躓いてしまわないように、保育園にいるうちからこれらのことをできるようにしておいてあげたいという保育者の思いがあるのではないかと推察する。そのような考えが感じ取れる反面、これらの種目では、ある程度のスペースや器具・用具、指導人数が必要となるうえ、危険を伴うために、保育者 1 人ではこれらの器具・用具の準備や、安全面に配慮した指導が日々の保育の中では難しく指導をする機会が少ないため、指導者人数の多い学生指導者に期待を持って、次回指導してほしい項目の上位に来ているのではないかと考えることができる。実際に O 体育大学の学生による運動指導を見学に行った際に「鉄棒・マット・跳び箱」には各 2 人ずつの補助が付いており、子どもたちがスタートする位置にも、もう 1 人補助員を配置していた。安全にしっかりと配慮を行なった指導体制になっていた。保育園でここまでの数の保育者を補助として付けるのはなかなか難しいのではないかと考えると、多人数による学生指導のメリットとして窺える。

「なわあそび」の項目が「マット・跳び箱・鉄棒」に次いで 17.8% と高いものとなっている。その理由として、園でなわとびを運動内容に取り組み始めたタイミングで保育所に指導に行ったことも関係してい

ると思われる。

「表現・リズム」の項目については3.9%と、「もっともやってほしい」という希望が少なくなっている。「表現・リズム」の指導は、現在の保育園の指導でも十分に対応することができる種目であり、保育者が誰かの手を借りることもなく指導することができるうえ、鉄棒・マット・跳び箱に比べると危険性も低く、人員も少なく指導できるため、比較的指導しやすい種目のためではないかと考えられる。(図5)

追記

今回保育所での運動指導を行った際に、歩数計をつけ子どもたちの普段の遊びの中での歩数を計測している。この歩数計測の結果については別の学生が研究を進めている。子どもたちの日々の歩数と体力・運動能力は相関関係にあり、歩数が増えると子どもたちの体力・運動能力も向上すると先行研究で証明されている前橋(2004)。多様な運動種目で歩数計測をおこない、その歩数を指標化することによって、運動の専門家ではない保育者にとって子ども達への運動指導が行いやすくなるのではないかと考えられる。子どもたちの体力・運動能力を示す1つの基礎資料として活用することができるのではないかと考える。今後も保育園において歩数計測を行うことに意義があると推察する(表2)。

次の表2は、運動指導で子どもたちの腰に歩数計をつけ計測したものである。どのようなあそびをすれば、歩数が獲得できるのかを調べるために計測した。

表2 運動あそび10分間歩数

	T市公立保育園	内容	10分間平均歩数	最高歩数	最低歩数
1	K保育園5歳59人	なわあそび(戸外)	341.5	925	87
2	T保育園5歳11人	ふれあい体操(室内)	293.0	464	177
3	O保育園5歳19人	なわあそび(室内)	356.8	639	241
4	W保育園5歳24人	ボールあそび(室内)	460.2	1848	152
5	OT保育園5歳19人	ボールあそび(戸外)	177.3	355	64
6	KH保育園5歳21人	ボールあそび(室内)	530.7	992	205

考 察

自由記述の結果の回答から見たのはおおむね訪問指導に対して肯定的な意見であった。その要因を考えると、子ども目線になり集団だからできる学生ならではの指導ができたからではないかということである。数が多い学生たちによる指導は、子どもたち一人一人に対し目がよく行き届くからこそ、子どもたち一人一人を受け入れることができたのではないか。また、先生としてではなく、おにいさん・おねえさんという存在であるという雰囲気が、保育者の先生や子ども達に高揚感と親近感を作りだすことができていたのではないだろうか。指導にあたった学生は幼児体育を専攻するゼミに所属する学生であり、幼児を実際に数多く指導する経験を持っていた学生たちであった。それらの経験の多さが雰囲気づくりに役立っていたのではないか。以上のことが、保育の専門家が行う保育とは内容の充実度においては大きく隔たりがあると思われる学生による訪問指導でも、子どもたちが集中することがで、夢中になって取り組むこと

ができた要因だと推察する。

また日常でよく使うなわとびの指導において、園では一人で跳ぶということを目的とした指導が主目的で行われていたようであったが、学生が行なった指導では、なわを使つての集団あそびの指導であった。なわの集団あそびを経験したことにより、個の遊びから集団での遊びへと発展させる経験をするのができ、その経験を通してなわあそびの楽しさを知ることができたのではないと思われる。子どもたち自身でなわとびを練習することも大切であるが、なわを使い集団であそぶ経験を学生の指導で経験したことにより仲間意識を育てることや、ゲーム性のあるあそびへの興味や関心を抱かせたと考える。

問6において自由記述の部分での回答において、今後、指導してほしい種目という項目では、「鉄棒・マット・跳び箱」という記述が多く上がっていた。鉄棒・マット・跳び箱は、子どもたちにとっても保育者においても指導するのは難しい種目であるのではないのかと考えられる。園での運動あそびの指導では「子どもの心をはぐくむこと、運動は楽しいからまたやりたい、仲間意識を育てること、友達と一緒に運動あそびを行うことが楽しいなど感じられ生涯運動に親しむ習慣を身に着けさせる」ことだと、幼稚園教育要領や保育所指針には述べられている。幼稚園教育要領や保育所指針の運動についての領域としての健康の項にも、指導内容においてマット、鉄棒、跳び箱に関する記述はない。翻って小学校教育指導要領では教科「体育」において器械・器具を使つての運動遊びという文言が示されている。小学校への連携意識（幼小連携）から鉄棒・マット・跳び箱ができなければ小学校に進んだときにできないことで困らないようにと意識しすぎているのではと推測された。園にいるうちから子どもたちにとっても保育者にとってもクリアするのは難しい種目である跳び箱、鉄棒の運動あそびを強制して指導することによって子どもたちが運動嫌いになってしまうのではないかと保育者が危惧する面もうかがえる回答であった。幼児期においては苦手意識を持たせることなく、運動あそびの楽しさを伝えてもらいたい。できる子にはどんどん鉄棒・マット・跳び箱を指導していくことは良いことだと考えるが、あまり取り掛かりにくい子や、苦手意識がある子に対してまで無理強いて鉄棒・マット・跳び箱を指導する必要はないのではないのか。まず基礎的な体力・運動能力を育てることが重要であると考え。保育園にいるうちは、できないことがいけないことではなく、「友達と一緒に遊ぶこと体を動かすことは楽しいことなんだ」、「運動は楽しいことなんだ」と感じることができるよう指導していくことが大切なのではないだろうか。学生による運動介入でそのことも園に伝えていくことがるよう課題としたい。

幼児の健康的な心身の発達において運動指導は9つの能力（効果）があるといわれている。

1. 身体的発達の促進。2. 運動機能の発達と促進。3. 健康の増進。4. 情緒の発達。5. 知的発達の促進。6. 社会性の育成。7. 治療的効果8. 安全能力の向上。9. 日常生活での貢献と生活習慣作り。前橋明（2009年）。そのような考え方を運動指導に行く学生は理論として学んでおく必要性も感じている。

運動や外遊びに対して、意欲のない子どもに対しての誘い方や、意欲のない子にどのように働きかけ意欲・関心・興味を高めていけばよいか悩んでいる保育者が多くいることが回答から見うけられた。次に鉄棒やとび箱などの指導方法に悩んでいる保育者が多いと感じられた。鉄棒などの指導に悩む理由としては、人員不足のために安全に配慮するのが難しいからではないだろうか。それに加え運動指導を専門にしている先生も少ないため、子どもたちに指導する際に指導のコツなどをなかなか上手に伝えることができないのも理由の1つではないかと考えることもできる。

展 望

今回のアンケート結果から、私たちが行った運動指導は非常に好評であったのではと少し自負の念を抱くことができた。訪問指導は6月から7月末という大変暑い時期であったにもかかわらず、子ども達は大変元気に私たちを迎え入れてくれた。私たちが運動指導という形で保育園に介入できたのは富田林の公立の保育園6園だけであったが、そのことは少し悔やまれる。なぜなら、子どもたちの楽しそうな様子を見てもっとたくさんの保育園に介入していけば良かったと感じたからだ。

今回のアンケートの結果から保育園側には好評であり、また運動指導として保育園に介入した学生にとっても指導案を作り実際に子どもたちに指導することで現場での経験を得ることができた。今回のような企画は、保育園側、学生側、双方にとってメリットが多いと思われる。今後は、学生が運動指導に行けるよう、保育園や幼稚園でのインターンシップとして学校のカリキュラムがあればよいと考える。また、保育園や幼稚園のインターンシップでは約1週間程度で実際に子どもたちの前に立ち指導をすることもあ。その時に運動指導に特化したような指導内容をやらせてもらうことができたならば、保育園側、学生側、双方ともにメリットがあるだろう。インターンシップにおいて、以上のようなカリキュラムの充実があれば多くの保育園において、体力・運動能力の向上に寄与できる学生指導ができると推察する。

観察授業として近隣にある〇体育大学において行われている幼児への運動指導を見学したことがあった。保育学生としては少し運動指導に自信を持っていたが、体育学生の素早い動きや、かけ声の大きさ、子どもをのせるハイタッチ等まだまだ学ぶことはたくさんあると感じた。

最後に、アンケートの結果や指導中に子どもたちの様子を見ていて筆者が感じたことをまとめておく。運動指導で効果のあった点

- ・子どもたちが元気よく取り組んでいたこと
- ・あそびの方法を知ることができたこと（保育園側）
- ・子ども目線での指導ができていたこと

効果がなかった（良くなかった）点

- ・さりげない配慮や子どもたちへの目配りが十分でなかったこと
- ・保育園側の要望として
- ・運動のコツや指導方法、アドバイス
- ・子どもたちに運動に対する意欲の持たせ方

今後同じような活動をする学生たちには、良かった点はそのまま生かしてもらい、効果がなかった（良くなかった）点は改善を考えて活動して行ってほしいものである。

注

1) 市内の保育園の紹介や子育て支援事業、発達相談など

引用文献

保育所保育指針 厚生労働省（2008）

幼稚園教育要領 文部科学省（2006）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 文部科学省（2012）
小学校指導要領体育科編 文部科学省（2008）
長瀬美子他 幼小連携カリキュラムのデザインと評価 風間書房（2015）
前橋明編 幼児体育 理論と実践 大学教育出版（2013）
「富田林市ウェブサイト」

謝辞

この活動に理解を示してくださってあたたかく受け入れてくれた富田林市公立保育園6園の先生方ならびに子ども達に心より感謝を申し上げます。一緒に指導を行い、私自身の卒論研究のために協力してくれたゼミ仲間の皆さんの厚い友情にも感謝の気持ちでいっぱいです。質問紙に回答していただいた先生方の想いを今後活かせるように働きかけることができればと思います。ありがとうございました。

アンケート資料

学生による運動あそび訪問指導について
大阪大谷大学 教育学部岡ゼミ 4 回生
増井正志

学生による運動あそびの実践にご協力いただきありがとうございました。より良い活用を考え今後の資料になるように、今回の実践交流においての子どもの変化やアドバイスとして変更した方が良い点、役立ったことなどお気づきの点があればご記入いただきご協力をお願いを申し上げます。

1、学生による運動あそびの訪問指導において良かった点を1つ教えてください。

()

2、園児さんに交流前と交流後で何か変化を感じられることはありましたか？（複数可）

①昼ごはんをしっかり食べた。 ②昼寝をしっかりした。 ③騒がしかった。 ④運動あそびの話が多くででた。

④変化なし。 ⑤その他

()

3、園児さんに運動あそびは好評でしたか、園児さんからの感想があればお知らせください。

①とても好評だった。 ②好評だった。 ③ふつう。 ④あまり好評ではなかった。 ⑤不評だった。

感想 ()

4、先生として運動あそびでの時間の長さはどう思われましたか？

①とても短く感じた。 ②短く感じた。 ③適度な時間だった。 ④長かった。 ⑤とても長く感じた。

5、先生として、今後このような運動あそびでの交流の機会があれば行ってもいいなと思われましたか？

①是非やりたい。 ②やってもよい。 ③どちらでもよい。 ④やらなくてもよい。 ⑤やりたくない

⑥その他

()

6、次回、運動あそびを行うとすれば、指導してもらおうとたすかると思われる種目は何か。

①ボールあそび。②マット・跳び箱・鉄棒。③表現・リズム。④なわあそび。⑤サーキットあそび

⑥その他

()

7、運動あそびの指導でなにか困っていることがあればお書きください。

()

8、その他、学生の指導に対して何かご助言があればお書きください。今後のより良い指導に活かしたいと考えています。

ご協力ありがとうございました。